

02 目次・特集「豪雨災害～備え、行動する～」

08 トップニュース  
行政改革に取り組んでいます／第31回龍神温泉木の郷マラソン大会を開催します ほか

14 情報ボックス  
脳わくわくクッキングを開催します／集団検診を受けて健康づくりに活かそう！ ほか

20 相談日程等

22 みんなの広場

26 みんなの彩時記  
商店街がにぎわう！ヤーヤーまつり♪／自然を通して楽しんだ大塔地球元気村 ほか



今月の表紙写真

今月の表紙は、新庄中学校で作成した非常持出袋に非常食等を詰めている様子を撮影しました。いざというときの備えは大切ですね。

紙面で使用するマーク等の説明

- |            |           |
|------------|-----------|
| 日…日付・期間    | 定員        |
| 時…時間       | 料金・費用     |
| 休…休館日      | 持ち物       |
| 場…場所       | 申込み・申請方法  |
| 集…集合       | 問合せ       |
| 内…内容       | [消印]…消印有効 |
| 対…対象・参加資格等 | [先着]…先着順  |

◇☎マークには、振替休日等も含まれます。  
◇料金や申込み方法の記載のないものは、不要です。  
◇市役所の開庁時間（申込み・問合せ等の受付を含む。）は、☎を除く月～金の8時30分～17時15分です。毎週☎は、市民課・保険課・税務課の一部窓口を19時まで延長しています。

特集

# 豪雨災害

備え 行動する

## 大雨によって 起こる災害とは

### 土砂災害

土砂災害には次の種類があり、山間部にお住まいの方は、特に警戒が必要です。

- ◇土石流 溪流の川床に、崩落又は堆積した土砂や岩石によってせき止められて水かさが増した川の水が、それらの堆積物を一気に押し流す現象です。大きな破壊力を持ち、集落や道路などに壊滅的被害を及ぼします。
- 前兆として、大雨の後などに「川の水が急に減り始める」「川の水が急に濁ったり流木が混ざったりする」などがあります。
- ◇崖崩れ 地中にしみ込んだ水分が土地の抵抗力を弱め、雨や地震の影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象です。

す。突然起きるため、逃げ遅れる場合も多くなり、死者の割合が高くなっています。

- 前兆として、大雨が降り続くなどに「崖から小石がバラバラ落ちる」「崖に裂け目ができる」「崖から水が湧き出る」などがあります。
- ◇地滑り 山地の緩斜面を構成している土砂や岩石が、ズルズルと下に向かって動き出す現象です。降雨・融雪による地下水の急激な増加が原因となることが多く、一度に広範囲で大きな被害を出します。
- 前兆として、大雨の後などに「斜面から急に水が湧き出す」「斜面や地面にひび割れができる」などがあります。



大雨が引き起こす、河川の氾濫や土砂災害等による甚大な被害。  
今回は、その大雨による災害や、災害に対する備え、地域の取り組みについて見ていきます。

発生のおそれのある災害から身を守るために、改めて防災・減災について考えていきましょう。

国土防災まちづくり課 地域防災係  
☎0739(26)9976



### 浸水害

大雨等による地表水の増加に排水が追いつかず、用水路・下水溝などがあふれて氾濫したり、河川の水位の上昇や高潮によって排水が阻まれたりして、住宅や畑が水につかる現象です。内水氾濫と呼ぶこともあるほか、道路や畑が水につかることを冠水ということもあります。

### 洪水害

大雨などを原因として、河川の流量が増加することによって堤防の浸食や決壊、橋の流出等が起こる現象です。一般的には、堤防の決壊や河川の水が堤防を越えたりすることにより起こる氾濫を洪水と言います。

二つの記録的な豪雨



災害から 守るために 身を

日頃からできる備え

- ◇自分の住まいの周辺に、急傾斜やひび割れしている斜面など、危険な箇所がないか把握しておきましょう。
- ◇避難場所や家族との連絡先を確認しておくとともに、懐中電灯・ラジオ・非常食など、非常用持ち出し品を備えておきましょう。

危険が迫った時

- ◇情報収集が大事！ テレビ・ラジオ・防災行政無線などで、最新の情報を入力するよう努めましょう。
- ◇早めの避難行動を！ 土砂災害の前兆や気象情報などの状況により、速やかに安全な場所へ避難しましょう。
- ◇避難の仕方 崖崩れの土砂は広範囲に及ぶため、崖からできるだけ遠くへ離れるようにしましょう。また、土石流は流れる方向の真横に逃げてください。洪水時は水位に注意し、水の流れが速い場合は20cm程度でも危険となるので、無理をせずに高い所で救助を待つようにしましょう。

なお、夜間の避難は大変危険です。避難が困難な場合は、無理に外に出ず、堅固な建物の2階以上などで、できるだけ斜面から離れた部屋へ避難しましょう。

■避難情報

段階	とるべき行動
<p>危険度高</p>	避難準備・高齢者等避難開始
	避難勧告
	避難指示（緊急）

※必ずしもこの順番で発令されるとは限りません。また、これらの情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

■「避難準備・高齢者等避難開始」に開設する指定緊急避難場所

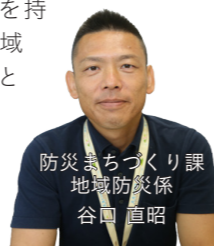
地域	名称
田辺	上芳養農村環境改善センター・中芳養小学校・芳養公民館・西部センター・田辺第一小学校（中部公民館）・ひがしコミュニティセンター・東陽中学校（東部公民館）・新庄公民館・秋津川公民館・上秋津農村環境改善センター・秋津多目的研修センター・稲成小学校・旧伏菟野小学校・東原多目的集会所・万呂コミュニティセンター・三栖コミュニティセンター
龍神	龍神小学校・龍神行政局・龍神市民センター・咲楽小学校
中辺路	中辺路コミュニティセンター・旧二川小学校・近野小学校
大塔	大塔総合文化会館・三川生活改善センター・富里生活改善センター
本宮	三里地区地域防災拠点施設・本宮中学校・下湯川集会所・旧皆地小学校・旧静川小学校・小津荷集会所・請川地区地域防災拠点施設

みんなで備え、災害に強いまちへ

市では、気象警報等の発表区分の細分化や情報伝達手段の多重化などの取組を進めるとともに、大雨が予想される場合などには、早めの避難情報の発令に取り組んでいます。

こうした行政の取組（公助）だけでなく、普段から一人ひとりが、自分の住んでいる地域の危険を認識し、避難や備蓄などについてできる限りの備えをしておくこと（自助）、また、地域や近隣の方々とつながりを持ち、互いに協力しながら、地域としての備えをしておくこと（共助）が大切となります。

日頃からみんなで防災・減災に努め、「災害に強いまちづくり」につなげましょう。



平成23年9月に起きた台風第12号災害から7年が経ちました。想像をはるかに超える被害から、皆さんも災害の恐ろしさを感じたことと思います。最近では、平成30年台風第7号及び梅雨前線等により西日本を中心に広い範囲で豪雨となり、洪水や土砂災害などの影響で人的被害・住宅被害が各地で発生しました。大雨による被害の大きかったこの二つを改めて見ていきましょう。

平成23年台風第12号

平成23年台風第12号は、本市に接近した時点で中心気圧965hPa、最大風速35mの大型で、ほとんど停滞したまま、市内に豪雨をもたらしました。この豪雨は、河川氾濫による水害や山腹の深層崩壊をはじめとする土砂災害等の甚大な被害をもたらし、市民9名の方の尊い命が犠牲となりました。

田辺地域の伏菟野地区・大塔地域の熊野地区をはじめ、本宮町三越（奥番）地区・中辺路町栗栖川（滝尻）地区・龍神村三ツ又地区等では、大規模な崩落が発生し、熊野地区では、土砂が川の流れをせき止める「土砂ダム」が決壊するおそれがあったため、警戒区域を設定し、12月3日まで同区域内への立入りを制限しました。また、国道311号線が寸断されるなど、市内の国道・県道・市道約100

平成30年7月豪雨

か所で全面通行止めになりました。ライフラインについても、1万世帯近くの停電や停電に伴う断水のほか、固定電話の不通、携帯電話・ケーブルテレビは田辺地域以外のほとんどの地域で不通となりました。こうした状況の中で、11地区245世帯が孤立し、市民生活に大きな影響が出ました。家屋（住家）等の被害は、土砂崩れや土石流による損壊及び河川の氾濫等による浸水が主なもので、1000棟を超える甚大な被害となりました。

6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に広い範囲で集中豪雨が記録されました。日本海を通過して北日本に停滞していた前線は7月4日にかけて北海道付近に北上した後、7月5日には西日本まで南下してその後停滞しました。また、6月29日に日本の南で発生した台風第7号は東シナ海を北上し、対馬海峡付近で進路を北東に変えた後、7月4日に日本海で温帯低気圧に変わりました。

この豪雨により、西日本を中心に河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数は200名を超える甚大な災害となりました。また、全国で上水道や通信といったライフラインに被害が及んだほか、交通障害が広域的に発生しました。

ため池ハザードマップ

市には、大小合わせて200か所余りのため池があり、このうち一定規模以上のものを60か所選定し、6つ（上芳養・中芳養・芳養地区、稲成・秋津・上秋津・万呂・東部地区、三栖・新庄地区、龍神地区、中辺路地区、大塔地区）のエリアに区切って掲載しています。

ため池ハザードマップは、ホームページでご覧いただけるほか、農業振興課及び該当する行政局産業建設課・公民館で配布しています。  
**問** 農業振興課 農業土木係  
 ☎0739(26)9938  
 □ <http://www.city.tanabe.lg.jp/nougyou/index.html>



洪水ハザードマップ

河川が氾濫した場合に想定される浸水状況（浸水範囲、深さ等）を表示したものです。

洪水による河川氾濫時における被害を最小限度に食い止めることを目的とし、予想される浸水の程度や避難施設等の各種情報を表示して、緊急時の避難に役立てます。

洪水ハザードマップは、ホームページでご覧いただけます。  
 ※今年度中に新たな想定で更新されます。  
**問** 管理課 管理係  
 ☎0739(26)9966  
 □ <http://www.city.tanabe.lg.jp/kanri/index.html>

土砂災害ハザードマップ

土砂災害防止法に基づき、土砂災害の恐れのある区域について調査をしています。市では、平成24年から土砂災害ハザードマップを作成しており、2020年に完成予定です。完成した地域ごとに配布及び説明会を行っています。

**問** 土木課 土木係  
 ☎0739(26)9934



地域での取組 **考**える

いざ災害が起こったとき、皆さんはすぐに行動を起こせますか？心では「できる」と思っているけど、普段からの備えがないと難しいと言われるかもしれません。各地域で組織されている「自主防災会」では、様々な活動を行い、普段から災害に対して備えています。今回は、秋津町自主防災会の中田会長にお話を伺い、普段の活動や取組について教えていただきました。皆さんもこの機会に、地域での活動や自分ができることについて考えてみませんか。

どのような取組をしていますか？

平成18年頃、「防災班（防災連絡網）」を構成し始めました。これは「向こう3軒両隣の隣近所助け合う」ことを目的としています。阪神・淡路大震災時に隣近所で助け合ったの救助が大半を占めていたことを教訓に、地域間でのお互いのつながりが必要であると考えました。また、秋津町内会（5地区）は7班に分けられていますが、防災班は更に多い140班あります。これは、細かく分けることにより、綿密に対応できると考えているからです。

普段の活動を教えてください

平成23年から避難訓練を始め、毎年実施しています。実際に避難すること

【防災行政情報システム】

「気象警報」「津波警報・注意報」「火災放送」「行方不明」「断水」「停電」「通行止め」「交通安全や火災予防運動」などの市の各種情報を配信します。

■防災行政無線  
 市内には約490箇所に屋外拡声子局が設置されており、気象警報や行政情報を放送しています。

■防災・行政メール  
 防災行政無線で放送している各種情報について、事前に登録いただいた携帯電話及びパソコンに『防災・行政メール』を配信するサービスを実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。  
 □ <http://www.city.tanabe.lg.jp/bousai/bg-mail.html>



防災行政メール QRコード

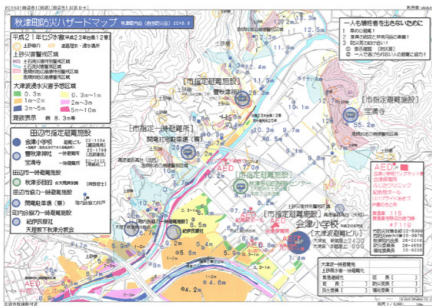
■防災・行政テレフォンガイド  
 電話回線を利用した電話案内サービスです。防災行政無線の放送内容を聞き逃した場合、フリーダイヤルで確認ください。通話料は無料です。  
 ☎0120(963)910

はもちろん、避難行動要支援者（自力での避難が難しく、支援を要する方）への安否確認を行ったりしています。防災班ごとに連絡網を使い、電話で確認していますが、時間が掛かることもあり、できるだけ各家庭へ出向いて確認するようになりました。すると短時間で確認が済み、班ごとの連携も強くなりました。

他に何か実施していますか？

秋津町オリジナルのハザードマップを作成し、全戸配布を行っています。市で作成したハザードマップの情報に加え、平成21年の七夕水害や平成23年台風第12号災害時に浸水したところや土砂崩れがあった箇所など、地域住民でなければ分からない情報を書き加えています。

これがきっかけで地域の方に災害の危険について認識してもらえればと思います。



秋津町防災ハザードマップ(平成30年度版)

早めの避難を心掛けて

災害は、いつ起こるか分かりません。まずは各々で非常食などの非常持ち出し品を備え、ローリングストック法（備蓄している非常食を日常的に食べ、食べたら買い足すということを繰り返す備蓄法）に取り組んでみてほしいと思います。

そして、実際に警報が発令された場合や危ないと思った場合には早めの避難を心掛け、できれば隣近所で声を掛け合って避難をしてください。「警報が出たのに、何も被害がなかった」「避難して損をした」と思うのではなく、「何も起こらなくて良かった」と思うようになればと思います。ラジオや防災行政無線・防災行政メールなど、情報収集の方法は様々あります。それらを活用するとともに、普段から災害への備えについて考えていきたいと思います。



秋津町自主防災会 会長 中田 康彦さん